



川瀬幸典（かわせ・ゆきのり）1968年、岐阜市生まれ。同市岩地の「はしもと内科」理事長・統括院長。地域のかかりつけ医として内科を中心に訪問診療や送迎サービスを手がけ、県内で初めて新型コロナウイルス後遺症外来を開設。「一日一笑・一生全笑」をモットーに患者との触れ合いを大切にしている。☎はしもと内科=058(245)5641



はしもと内科の外観

2歳以上なら蜂蜜も

日中はまだ暖かいですが、朝晩はすっかり秋の気候です。これから冬にかけては、厄介なせきに悩まされる方が増え、当院の「咳専門外来」でも患者さんが目立ってきます。その背景には、さまざまな要因が絡んでいます。

まずは、気温の低下による空気の乾燥です。気道の粘膜が刺激され、せきが出やすくなります。寒冷な空気は、ぜんそくやアレルギー性鼻炎などを悪化させる要因にもなり、せきを引き起こすことがあります。

インフルエンザや風邪のウイルスが活発になる季節

でもあります。感染することで気道に炎症が生じ、せきが長引きがちです。

寒暖差も大きくなるので、体の体温調節機能が崩れたり、免疫力が低下したりすることもあります。これによって呼吸器系が敏感になり、せきや気道の過敏症状の悪化につながります。

病院では、せき止め薬を処方されるのが一般的ですが、なかなか症状が改善しない方もおられます。私も種々のお薬で治療を試みますが、小さなお子さんがどうしてもお薬が飲めない場合、2歳以上に対しては蜂

◆ 子どものせきの治療法 ◆



蜜を勧めることがあります。

蜂蜜は、子どものせきに対する治療法として古くから知られていますが、医学的にも効果的である可能性が示されています。海外では、一般的な処方薬と比べても効果が高いとする研究結果もあり、抗生物質の代替品になり得るともされています。

ただし、自然素材で安全なイメージがある蜂蜜ですが、1歳未満の乳児に対しては与えないようにしましょう。乳児ボツリヌス症に

よって、時には死亡する危険があるためです。くれぐれもご注意ください。2歳以上の場合も、せきが長引くときは、かかりつけ医に診察してもらいましょう。

なお、市販の蜂蜜にはシロップや添加物が入っている場合もあります。100%純粋な蜂蜜を選ぶようにしましょう。ちなみに、私は本当の蜂蜜を追求するあまり、自宅で養蜂を始めてしまいました。



自宅でミツバチを育てている川瀬さん（本人提供）